

4月から

浄水場の共同運用が始まります

～持続可能な水道事業の実現を目指して～

問 水道局総務課 Tel.06-6991-6774

広報もりぐち令和5年9月号でお知らせしましたが、4月から、本市浄水施設の老朽化および府域水道の基盤強化を見据えた広域化推進事業として、大阪市の庭窪浄水場を共同で所有・運用します。

大規模な大阪市の浄水場を共有することで、より高い安定性を確保できます。

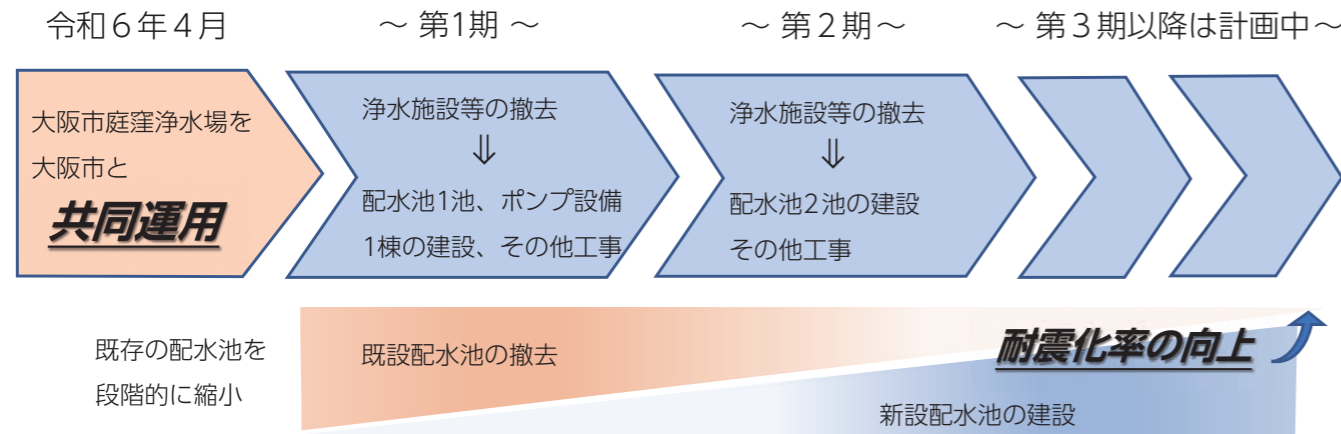
浄水処理をする場所は変わりますが、利用者の皆さんには影響なく、これまでと同様に水道をご使用いただけます。

共同運用を開始した後は？

浄水施設(水をつくり出す施設)は共同運用しますが、配水施設(つくられた水を貯めて市内に送る施設)は当分の間、継続して既存施設を使うこととなります。

既存施設の大部分は、高度経済成長期(昭和30年代～50年代)に建設されたもので、更新時期を迎えつつあるため、使用しなくなった浄水施設を段階的に撤去しつつ、老朽化した配水施設の更新を進め、耐震性能を有する配水場として再構築します。現在は、その基本計画の作成に取り組んでいます。

施設再構築のイメージ



施設の耐震化は？

市水道局では、「守口市水道ビジョン2023」で示す基本方針の1つである「災害に強い水道の構築」に基づき、施設の耐震化を推進しています。

大阪市庭窪浄水場は、既に耐震化率が30%であるため、共同運用が開始された段階で、市水道局も同様の耐震化率を確保することとなります。また、上記のとおり、市配水施設についても、施設の再構築により耐震化率の向上を図ります。



市水道局マスコットキャラクター
しずくちゃん・みちるくん

守口市水道ビジョン2023とは

「安全」「強靱」「持続」を基本方針とした、市水道事業の今後10年間の目指すべき将来像を描いたもの

詳しくはこちら



守口さんぽ Vol.3

守口市駅北側エリアリノベーション社会実験

問 都市・交通計画課 Tel.06-6992-1679

京阪電車守口市駅西口エリアや桜町団地周辺エリアの活性化のため、道路・公共空間・空き店舗などを活用したまちの魅力づくりや回遊性向上を目的として実施した社会実験「守口さんぽ vol.3」を振り返ります。

実施期間…令和5年10月27日～28日、11月24日～26日(5日間)



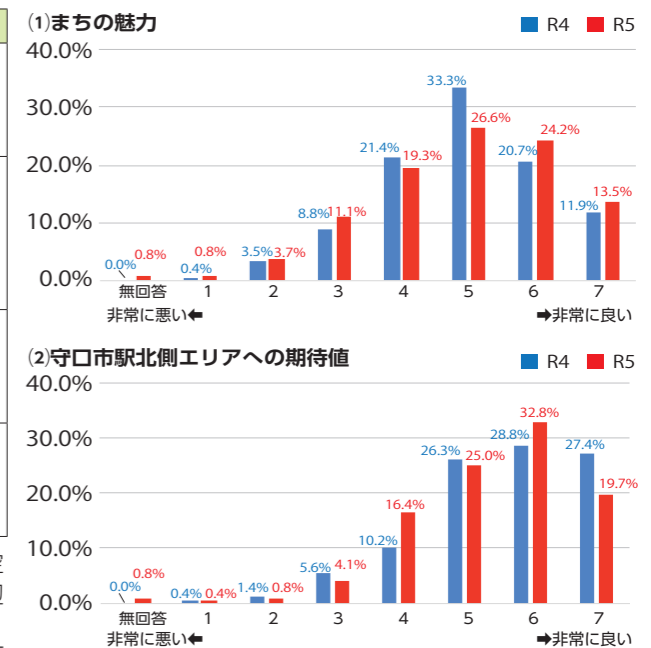
社会実験の検証結果

項目	検証結果
来場者数	R5:約4,223人/5日間 (内1日は雨天のため縮小して実施) (参考 R4:約11,323人/13日間)
来場者の種類	20～59歳が大半を占め、 20～29歳の来場割合が10%以上増加↑ また、守口市外の人が10%増加↑
イメージの変化	当該エリアに対する期待値やまちの魅力は 高い結果になっている。 (右図参照)
地元企業等との連携	R5:出店46社 協賛10社 協力2社 合計58社 (参考 R4:出店50社 協賛12社 合計62社)

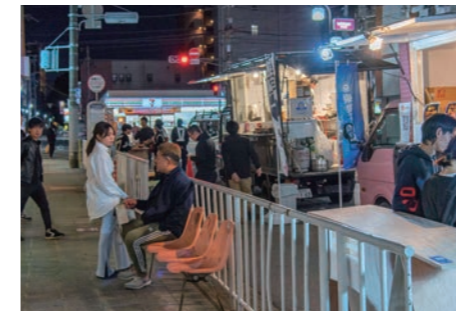
今回は、初めての夜間開催。守口市駅西口エリアの会場では、道路空間などを活用し、「守口市駅北側エリアリノベーション戦略」に基づく周辺エリアの事業可能性などの検証を行いました。

来場者数は令和4年度と同程度の水準で、若年層や通勤・通学などの市外の人も含め、多くの人でにぎわい、来場者へのアンケートでは、まちの魅力が上がっているとの評価をいただき、当該エリアへの期待値も高くなっています。

来場者アンケートの結果



(1) R4年度と比べ高評価である「6」以上の評価が約5%上昇
(2) 高評価である「6」以上の評価が約50%以上を占めている



京阪守口市駅西口エリア(京阪守口ビル前)



京阪守口市駅西口エリア(駅前広場)



桜町団地周辺エリア



シンポジウム

11月24日に、民間駐車場を活用した「大人と子ども広場」にて、社会実験の一環としてシンポジウムを実施。

地元事業者やまちづくりの専門家などをパネラーとして「守口さんぽ」を振り返りながら意見交換を行いました。

今回、社会実験に参加された皆さんの手応えや改善点などについて情報共有がされました。パネラーからは、他市での成功事例の紹介や事業者間の連携、街遊びや公共空間の活用などについて活発に意見が交わされました。